

須坂市を歩いた時、その地の豊かさと同時にもったいなさを痛感した。対象街区には、常念寺や社会福祉協議会といった人々を支えるための施設、墨坂神社やお茶屋さんといった日本文化を大切に継承していくための施設が残っている。しかし、忙しない車の大量、人気のなさによってこのまちが大切にしてきた速度が壊されていると感じた。そこでイタリアのスローシティを参考とし、近代化による画一的な街ではなく、須坂市がもつ本来の良さや伝統を生かしたまちづくりを提案する。特にこのまちを古くから支えてきた蔵と裏側用水を軸に、信州の自然に囲まれた豊かなコミュニティの形成を目指す。

ステップ1では街路を整理すると同時に“共有する”文化を創る。

ステップ2では蔵や長屋といった伝統的な建物を生かして人々が歩くきっかけを創る。

ステップ3ではステップ2を拡大させ人々がとどまる仕掛けを作る。

ステップごとにまちの速度は落ちていき、ついには時速 3.2km となる。時速 3.2km は人がゆったりと歩く速度であり、そのゆったりとした時の流れがこのまちに豊かな文化、コミュニティをもたらすと考えた。

以上が私の考える「時速 3.2km のまち」である。